



それゆけ三中

教育目標：より確かに・より豊かに・より逞しく

令和2年11月6日
足利市立第三中学校

生徒数：199名
発行者：高木秀和

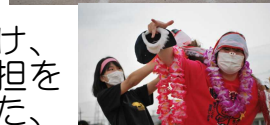


けんちん汁、たんたんめん風うどん、ガタン、秋味シチュー、かぼちゃひき肉フライ、あいしょう汁、おきりこみうどん、かぼちゃとじゃがいものポタージュ、季節の食材が彩りを添える汁や揚げ物が身体をほっこり暖めてくれる、そんな季節になりました。給食の副菜の移り変わりが、肌寒い季節の訪れを語っています。秋の深まりを感じる今日この頃ですが、学校は活気に溢れています。1学期を静とするなら、2学期は動といったところでしょうか。コロナ禍の中、様々な制約を嘆くのではなく、残された自由になるスペースを存分に活用して、人と人を繋ぐ実となる行事が展開されました。その生徒、先生方の熱意と実行力を誇りに思うと同時に、感謝の気持ちでいっぱいです。

全校レクリエーション大会・未成年の主張 10/7(水)・15(木)



大縄跳び、部活動リレー、仮装リレーの三種目の『レク競技』と、希望者が4階非常階段から校庭にいる全校生徒、教職員に向けて自分の思いを大声で語る『未成年の主張』の2部構成となっており、どの種目にも、生徒一人一人、教職員一人一人が参加して楽しめる工夫がされていました。大縄跳びでは、クラスを2班にわけ、密を避けて跳ぶと同時に、ずっと跳び続ける負担を軽減し誰でも参加しやすくなっていました。また、



部活動リレーは、エキシビジョンマッチとして、部活内での親睦を深めることをねらい、さらには、帰宅部チームも加えて、競争と言うより走りのユニークさをアピールしあっていました。生徒会本部役員さんと顧問の先生方の、優しさや温かさが、皆の気持ちを一つに、その絆を深めてくれました。



駅伝競走大会 10/20(火) 渾身の走りとチームの絆



秋晴れの空の下、駅伝競走大会が総合グラウンドの陸上トラックで開催されました。コロナ禍対策により、走者ごとのタイムレースで順位を競う形式でしたが、心と心のタスキはしっかり繋いでくれました。15名全員に心より拍手を贈ります。

爽快な走り 少しきつい走り 追い込んだ走り 限界はまだでも苦しくて 止まりたくて 夢中で踏み出した一歩 その距離 そのスピード 耐え続けた者にしかわからない 汗と涙と笑顔

ともに第三中学校の校庭を走りきった仲間達 支えてくれた先生達 今日ここに15名全員が己を制し 夏から秋 季節の中を走り抜け 次のステージへ羽ばたく



新人交流大会 その2 女子バスケット10/17(土) バドミントン10/24(土)・31(土)

女子バスケットの交流大会は協和中で行われました。VS 坂西中で、1・2年全部員が交替で出場し熱戦を展開しました。声を掛け合い、相手のディフェンスを突破する勇姿に日頃の鍛錬を垣間見ました。

バドミントンは、男女に分けての開催で男子は第三中学校、女子は毛野中学校を会場として実施されました。今回は人数制限があり、全部員の参加は実現しませんでした。代表選手が三中の底力を見せ、奮闘してくれました。



生徒集会（生徒会役員立候補者紹介） 10/21（水）

放送による生徒集会で、次期本部役員候補者の紹介がありました。「放送は、緊張します。」と、マイクに向かうまで硬い面持ちの候補者も、いざ番がくると、堂々と自分の思いや構想を述べていました。

生徒会立会演説会・投票 10/28（水）

立会演説会は映像を使つての実施となりました。選挙管理委員会の皆さんが、候補者の演説を録画し、各クラスで視聴するという、コロナ禍対策を考慮した上での策です。『考え生み出す』が大変立派です。選挙を受けての次期生徒会本部については、12月号でお知らせします。選挙管理委員さん、立候補者のみなさん、お疲れさまでした。



道徳研究授業 10/29（木） 日頃から道徳の授業に熱心な先生が自ら手を挙げ、市教育委員会訪問の研究授業を実践してくれました。生徒に寄り添い、生徒のためによりよい道徳の授業を目指したいという先生の思いが授業の根底にあり、研究のための授業でなく、目の前の一人の、この子のための授業でした。生徒は『夢』を持つことについて、周囲の考えや意見を聞きながら自分の考えを深化させていました。研修も実のある充実した会になりました。

薬物乱用防止教室 10/26（月） 3年生を対象に第5校時、本校体育館で劇団三十六系さんによる上演がありました。役者さんの演技はその場の臨場感が強く、薬物の恐ろしさ、一度でも関わってはいけないというメッセージがダイレクトに伝わってきました。『ダメ、絶対』この意味の深さを再確認しました。



教育実習 その2 10/19（月）～11/6（金）

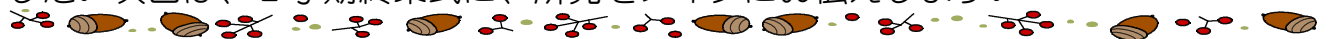
2年1組 先生（国語）、3年1組 先生（数学）、3年3組 先生（保体）、3人の先輩が教育実習を行いました。授業、部活、休み時間などの場面で、皆さんも共に時間を過ごすことがあったでしょう。前号でもお話しましたが、教育実習は、大学を卒業する前のとても大切な勉強です。その実習を頑張る先輩の姿から、皆さんも何か大切なことを学べたと思います。皆さんの笑顔と温かさ、先輩達への応援にも感謝しています。




言葉の窓
よく見ないけど、
何て読むのかな？
排球
バレーボールを表す漢字。
排は「追い出す、押しのける」の意味。自陣のボールを相手のコートに打ち返すバレーに使われたらいい。答：ハイキュー

通信表配付 10/23（金）

1学期終業式に配付した通信表は、皆さんの頑張りを伝える所見がメインでした。今回は、6月からこれまでの各教科の評価をお知らせするために通信表を配付しました。次回は、2学期終業式に、所見をメインにお伝えします。



スパイカーが球拾い!?! ～苦境を最高の練習の場に変えた選手の話 あるバレーボールの漫画より～

いつもミドルブロッカーとして速攻スパイクを決め、チームの花形的存在であった主人公のHSは、選抜されたチームメイトを追って招集されていない強化合宿に一人乗り込みました。ただ、強い人達と練習したいという思いがHSを動かしたのです。そこで追い返されることはなかったのですが、与えられたのは球拾いという仕事だけ。嫌ならいつでも帰っていいとも言われました。HSは、練習をさせてもらうこともなく、毎日1時間半の道のりを通い、ただひたすら球拾いをしていました。

そんな中、キャッツウォークに干してあるビブス（ゼッケン）を取りに行った時、2階の高さからコート全体を見渡すことで、HSの中にある視点が動き、それはやがて考え方を変容させていきます。今までスパイクを打つことばかりを考えていたHS、レシーブの格好良さに感動し、レシーブの動きから全体の流れを観ることの大切さを知ります。また、強い選手の動きを凝視することで、細かなステップの有効性、同時に、それは人によって違うことなど自ら食欲に学んでいきます。

ただ球拾いをするのではなくレシーブをイメージして、飛んでくる球に正面から入ってみたり、ボールがキャッツウォークに上がれば率先して取りに行き、上からコート観察したり、「あいつ球拾いなのに、この中の誰より運動量多いんじゃないか。」と周りに言わせる程の動きを見せます。

自分の置かれた環境を嘆いても得るものは無い、その環境を生かせば得るものは大きい、そんなことを教えてくれる漫画の中のエピソードです。

茜の光が背を押して、校庭に伸びる影、頼をかすめる朱萼の萼